

# ステップ3の評価方法に基づく評価について

平成28年8月8日  
沖縄県

# 目次

## 1. 各ステップの評価方法

## 2. 評価の視点別活動結果と評価について

2-1. 情報の提供方法は適切であったか(情報提供方法)

2-2. 情報内容が適切であったか(情報内容)

2-3. 県民等との対話が適切に図られたか(対話)

2-4. 幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか(対応)

2-5. まとめ

# 1. 各ステップの評価方法

	評価の視点	具体的内容	評価指標
1	情報の提供方法は適切であったか (情報提供方法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ステップの検討内容に応じた情報提供手法が適切に行われているか評価します。</li> <li>コミュニケーション活動への県民の参加状況、計画策定に向けた各ステップの取組の周知状況(認知度)を把握し、周知されたか評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション実施計画と実施の比較</li> <li>国内の他事例との比較</li> <li>コミュニケーション活動への県民等の参加状況</li> <li>鉄軌道の計画検討及び各ステップの取組についての認知度</li> </ul>
2	情報内容が適切であったか (情報内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ステップの検討の内容、検討過程及び検討結果についての情報が開示されているか評価します。</li> <li>各ステップにおいて提供した情報内容が適切であったか評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の開示状況及び情報内容</li> <li>提供した情報の理解度</li> </ul>
3	県民等との対話が適切に図られたか (対話)	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会等を通して、県民等との対話が図られたか評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民会議、市町村会議、関係機関等意見交換会の実施状況</li> <li>オープンハウスの実施状況</li> </ul>
4	幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか。 (対応)	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄せられた意見及び県民等との対話により多様な意見を把握できたか評価します。</li> <li>あわせて、寄せられた意見について「対応が示されているか」について評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い属性(性別、年齢)、関係者の意見の把握</li> <li>寄せられた意見の分類(カテゴリー別、年代別)及び意見概要のとりまとめ</li> <li>寄せられた意見への対応方針が示されているか</li> </ul>



## 2. 評価の視点別活動結果と評価について

## 2-1. 情報の提供方法は適切であったか（情報提供方法）

### （1）活動結果

#### 【ステップ2と同様に実施した活動】

- ・テレビ（県政広報テレビ番組「うまんちゅひろば」）で意見募集等を周知
- ・専用HPを設置し委員会等資料やパネル展示等に関する情報提供
- ・ニューズレター（おきなわ鉄軌道ニュース）の全戸配布
- ・パネル展示による情報提供
- ・オープンハウス（県職員を配置したパネル展示）
- ・県民会議、市町村会議、関係機関等意見交換会の実施
- ・各地でのパネル展示、オープンハウス、県民会議等について円滑な取材が行われるよう、事前に報道機関へ情報提供
- ・認知度調査は、沖縄鉄軌道の取り組みに対する県民の認知度を把握するため、PI活動終了後、県内21ヵ所にてヒアリング調査を実施。

## 【ステップ3からの追加事項】

- ・テレビ(県政広報テレビ番組「うまんちゅひろば」)では、意見募集等のお知らせに加え、沖縄鉄軌道計画案づくりを放送した(5/28、5/29)。
- ・県広報誌(美ら島沖縄)を活用し意見募集の周知をした。
- ・専用HPでは、委員会等資料やパネル展示等に関する情報提供に加え、意見募集期間は、トップページにアンケートバナーを設置した。
- ・ニュースレターは、全戸配布に加え、多くの県民等が利用するコンビニ(ローソン)やスーパー(イオン)でも配布した。
- ・パネル展示、オープンハウスについては、委員会からのご意見を踏まえ、下記施設を追加し、より多くの県民への情報提供及び直接対話を実施した。
  - ①体の不自由な方などに配慮し、県立病院を3か所追加  
「県立北部病院」、「県立中部病院」、「県立南部医療センター・こども医療センター」

- ②多くの人が集まる中南部地域の商業施設を4か所追加  
「イオン北谷」、「イオンタウン南城大里」、「プラザハウスショッピングセンター」、  
「サンエー豊見城ウイングシティ」
  
- ③若い世代への周知を図るため、大学等を4か所追加  
「沖縄女子短期大学」、「沖縄キリスト教学院大学」、「県立芸術大学」、  
「県立看護大学」
  
- ④離島地域へ周知を図るため、離島航路の発着地である港を2か所追加  
「泊ふ頭旅客ターミナルビルとまりん」、「運天港」

## (2) コミュニケーション実施計画と実施の比較

### 【広報】

手法	実施計画内容		実施状況及び期間	比較	
テレビ・ラジオ等	前半	・ テレビ又はラジオ ・ 新聞	・ 県政広報テレビ番組（うまんちゅひろば）で意見募集等を周知した。 ・ 沖縄県広報誌（美ら島沖縄）で情報提供及び意見募集等を周知した。	・ テレビ 1/30, 31放送 ・ 広報誌 2016年2月号	○
	後半	・ テレビ	・ 県政広報テレビ番組（うまんちゅひろば）で情報提供及び意見募集等を周知した。	・ テレビ 5/28, 29放送	○
HPでの情報掲載	前半	・ 技術及び計画検討委員会やパネル展示等に関する情報を提供	・ 技術及び計画検討委員会やパネル展示等に関する情報をPI開始時期から提供した。 ・ 意見募集期間はアンケート欄を設置。	・ H27. 11～ ・ アンケート欄設置 1/25～2/14	○
	後半	・ 技術及び計画検討委員会やパネル展示等に関する情報を提供	・ 技術及び計画検討委員会やパネル展示等に関する情報をPI開始時期から提供した。 ・ 意見募集期間はアンケート欄を設置。	・ H27. 11～ ・ アンケート欄設置 5/16～6/15	○

【HP情報掲載】→



### 【広報誌(美ら島沖縄)】



### 【テレビ(うまんちゅひろば)】





## 【情報提供・情報共有】

手法		実施計画内容	実施状況及び期間	比較	
ニューズレターの配布	前半	・ 県内全戸配布 (おきなわ鉄軌道ニュース 第4号)	・ おきなわ鉄軌道ニュース第4号を県内に全戸配布した。 ・ コンビニ(ローソン)、スーパー(イトン)で配布。	・ 第4号:1/18~1/29 ・ 1/28~	◎
	後半	・ 県内全戸配布 (おきなわ鉄軌道ニュース 第5号)	・ おきなわ鉄軌道ニュース第5号を県内に全戸配布した。 ・ コンビニ(ローソン)、スーパー(イトン)で配布。	・ 第5号:5/16~6/5 ・ 5/16~	◎
パネル展示	前半	・ 50か所、延べ264日	・ 52か所、延べ319日 (病院2か所追加、県庁等で展示延長)	・ 1/25~2/21	◎
	後半	・ 53か所、延べ265日	・ 55か所、延べ274日 (港2か所追加)	・ 5/20~6/15	◎

### 【ニューズレター】 第4号

2016年 沖縄鉄軌道構想段階P1 おきなわ鉄軌道ニュース 第4号 沖縄県企画部

8ページ(最後のページ)にあるアンケートに答えてね!

あなたのご意見お聞かせください!

那覇~名護間を1時間で結ぶ鉄軌道導入に向け、計画案づくりを進めています。

計画案では、

- ・ 県土のゆがみある路線
- ・ 観光及び観光客の移動利便性の向上
- ・ 中部県道沿線の活性化の促進

などを踏まえ、県民の暮らしから鉄軌道の導入に向け、鉄軌道の計画案づくりに取り組みしています。

計画案は、県民の暮らしから鉄軌道の導入に向けた必要事項を検討していくこととしています。

現在、ステップ3の検討を実施中!

ステップ1: 検討の方向性を決定  
ステップ2: 検討の方向性を決定  
ステップ3: 検討の方向性を決定  
ステップ4: 検討の方向性を決定  
ステップ5: 検討の方向性を決定

### 第5号

2016年 沖縄鉄軌道構想段階P1 おきなわ鉄軌道ニュース 第5号 沖縄県企画部

鉄軌道計画案づくりは、現在ステップ3でルート案などを検討中!

那覇~名護間を1時間で結ぶ鉄軌道導入に向け、計画案づくりを進めています。

計画案では、

- ・ 県土のゆがみある路線
- ・ 観光及び観光客の移動利便性の向上
- ・ 中部県道沿線の活性化の促進

などを踏まえ、県民の暮らしから鉄軌道の導入に向け、鉄軌道の計画案づくりに取り組みしています。

計画案は、県民の暮らしから鉄軌道の導入に向けた必要事項を検討していくこととしています。

現在、ステップ3の検討を実施中!

ステップ1: 検討の方向性を決定  
ステップ2: 検討の方向性を決定  
ステップ3: 検討の方向性を決定  
ステップ4: 検討の方向性を決定  
ステップ5: 検討の方向性を決定

### 【パネル展示】



写真:平成28年5月20日 イオン名護

## 【対話による情報提供・情報共有】

手法	実施計画内容		実施状況及び期間		比較
オープンハウス	前半	・各地域の商業施設等で開催 11か所、14回	・北部、中部、南部、宮古、石垣の各地で実施した（11か所、14回）。	1/25～2/20	○
	後半	・各地域の商業施設等で開催 11か所、16回	・北部、中部、南部、宮古、石垣の各地で実施した（11か所、16回）。	5/20～6/10	○
県民会議	前半	・一般公募により選出された県民による意見交換を実施	・選出された県民による意見交換を実施した（参加者：24名）。	1/30	○
	後半	・一般公募により選出された県民による意見交換を実施	・選出された県民による意見交換を実施した（参加者：18名）。	6/4	○
市町村会議	前半	・本島26市町村と意見交換を実施	・本島26市町村と意見交換を実施した。 ※名護市, 今帰仁村, 金武町, 中城村は欠席	2/3	○
	後半	・本島26市町村と意見交換を実施	・本島26市町村と意見交換を実施した。 ※今帰仁村, 南風原は欠席	5/23	○
関係機関等意見交換会	前半	・交通事業者、経済・観光団体、市民団体等との意見交換を実施	・交通事業者、経済・観光団体、市民団体等との意見交換を実施した。	2/10	○
	後半	・交通事業者、経済・観光団体、市民団体等との意見交換を実施	・交通事業者、経済・観光団体、市民団体等との意見交換を実施した。	6/8	○

【オープンハウス】



【県民会議】



【市町村会議】



【関係機関等意見交換会】



### (3) 国内の他事例との比較

沖縄鉄軌道(ステップ3)			
		前半	後半
1	テレビ	2回	2回
2	広報誌	1回	1回
3	HPへの 情報掲載	—	—
4	ニューズレター の配布	県内全戸(約 57万部)配布	県内全戸(約 57万部)配布
5	パネル展示	52か所 延べ319日	55か所 延べ274日
6	オープンハウス	11か所 延べ14回	11か所 延べ16回
7	県民会議 等	3回	3回
8	意見を寄せた方	5,974人	8,788人
	意見総数	15,613件	20,123件

	那覇空港 (ステップ3)		福岡空港 (ステップ3)	
1	パネル展示	10か所 延べ165日	テレビ	56回
2	オープンハウス	26か所、 延べ172日	ラジオ	129回
3	説明会、懇談会	37回	新聞	3回
4	見学会	1回	ニューズレター 等の配布	約277万部
5	シンポジウム	1回	オープンハウス	8か所 16回
6			見学会 等	38回
7			インフォメーショ ンコーナー	4か所
8	意見を寄せた方	8,892人	意見を寄せた方	2,655人
	意見総数	20,951件	意見総数	7,933件

## (4) コミュニケーション活動への県民の参加状況

### ① ニュースレター配布やパネル展示等の状況

手法		参加状況	備考
ニュースレター配布	前半	約56万8千世帯へ配布	県内全戸を対象
	後半	約56万8千世帯へ配布	県内全戸を対象
パネル展示	前半	8,523人 (うちオープンハウス258人)	延べ319日開催 (うちオープンハウス14回)
	後半	11,729人 (うちオープンハウス760人)	延べ274日開催 (うちオープンハウス16回)
ホームページへの 情報掲載	前半	延べ2,011アクセス(意見募集期間)	委員会資料、ニュースレター等を掲載
	後半	延べ3,152アクセス(意見募集期間)	委員会資料、ニュースレター等を掲載

### ② 地元新聞社による報道状況

見出し/日付	報道要旨	メディア
①鉄軌道ルート3月に複数案 (H27.11/14)	・第3回沖縄鉄軌道技術検討委員会に関する報道 ・具体的なルート案を複数提示する内容等を報道	沖縄タイムス 2面
②鉄軌道 那覇-名護が軸 (H27.12/12)	・第3回沖縄鉄軌道計画検討委員会に関する報道 ・複数のルート案は那覇-名護を骨格軸とする内容等の報道	沖縄タイムス 2面

見出し/日付	報道要旨	メディア
③県民意見収集 (H27.12/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回沖縄鉄軌道プロセス運営委員会に関する報道</li> <li>・PI期間中にニューズレターを全戸配布し、県民意見の募集を報道</li> <li>・パネル展示、オープンハウス、県民会議等の開催に関する報道</li> </ul>	琉球新報 2面
④鉄軌道のサイト刷新 (H27.12/24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄鉄軌道計画案づくりの専用HPのデザイン刷新に関する報道</li> <li>・専用HPでは、委員会資料等の情報提供をしている内容の報道</li> </ul>	沖縄タイムス 2面
⑤来年3月複数ルート案 (H27.12/31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルート案の検討作業に入る前に、県民意見の募集や出前講座、県民会議等を行い県民と情報共有を図る内容の報道</li> </ul>	沖縄タイムス 2面
⑥「鉄軌道導入」と北部振興 議論(H28.1/15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北部振興会による1/19名桜大学でシンポジウム「沖縄本島縦貫鉄道と北部振興」を開く</li> </ul>	沖縄タイムス23面
⑦北部観光 鉄軌道の展望 (H28.1/25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム「沖縄本島縦貫鉄道と北部振興」の様子を報道</li> <li>・琉球大学名誉教授池田孝之 基調講演</li> </ul>	沖縄タイムス15面
⑧県民目線で議(H28.2/1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回沖縄鉄軌道県民会議の様子を報道</li> </ul>	沖縄タイムス 2面
⑨鉄軌道導入市町村と会議 (H28.2/8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回沖縄鉄軌道市町村会議の様子を報道</li> </ul>	琉球新報 2面
⑩鉄軌道への要望 市町村から聴取(H28.2/8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回沖縄鉄軌道市町村会議の様子を報道</li> </ul>	沖縄タイムス 2面
⑪鉄軌道ルート案 県が本格検討(H28.2/12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回沖縄鉄軌道関係機関等意見交換会の様子进行報道</li> </ul>	沖縄タイムス 3面
⑫鉄軌道導入向け意見交換 (H28.2/11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回沖縄鉄軌道関係機関等意見交換会の様子进行報道</li> </ul>	琉球新報 2面



見出し/日付	報道要旨	メディア
⑬那覇-名護軸に鉄軌道4案 (H28.3/29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回沖縄鉄軌道技術検討委員会に関する報道</li> <li>・骨格軸のルート案が4つ示され内容の報道</li> </ul>	琉球新報 (電子版)
⑭那覇-名護 鉄軌道4案 (H28.3/30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回沖縄鉄軌道技術検討委員会に関する報道</li> <li>・骨格軸のルート案、フィーダー交通に関する内容の報道</li> <li>・5月にPIを実施して県民意見を募集する内容の報道</li> </ul>	琉球新報 1面
⑮那覇-MICE間検討 (H28.3/30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回沖縄鉄軌道技術検討委員会に関する報道</li> <li>・骨格軸のルート案、フィーダー交通に関する内容の報道</li> </ul>	琉球新報 2面
⑯鉄軌道 那覇-名護4案 (H28.3/30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回沖縄鉄軌道技術検討委員会に関する報道</li> <li>・県民意見の募集を行う内容の報道</li> </ul>	沖縄タイムス 1面
⑰東西ルート 一長一短 (H28.3/30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回沖縄鉄軌道技術検討委員会に関する報道</li> <li>・採算や合意形成、特例制度の創設等の内容の報道</li> </ul>	沖縄タイムス 2面
⑱本島鉄軌道導入4案 (H28.4/3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回沖縄鉄軌道技術検討委員会に関する報道</li> <li>・県民意見募集、採算性、特例制度の創設等の内容の報道</li> </ul>	琉球新報 2面
⑲県が意見募集 (H28.4/30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月中旬からニューズレターの全戸配布、パネル展示、オープンハウスの実施し、県民意見を募る内容の報道</li> </ul>	沖縄タイムス 2面
⑳鉄軌道県民意見 (H28.5/9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップ3前半のPI(1月~2月)の意見内容に関する報道</li> <li>・ステップ3後半のPI(5月~6月)の実施に関する報道</li> </ul>	琉球新報 2面
㉑「観光資源に」 鉄軌道へ要望 (H28.6/9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回沖縄鉄軌道関係機関等意見交換会の様子を報道</li> </ul>	琉球新報 2面
㉒鉄軌道計画で意見交換 (H28.6/9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回沖縄鉄軌道関係機関等意見交換会の様子を報道</li> </ul>	沖縄タイムス 2面
<p>○その他鉄軌道計画に関する県民等の声 (H27.8/1~H28.7.10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論壇 8件 、 ・主張・意見 15件</li> </ul>		

## (5) 提供した情報の認知度

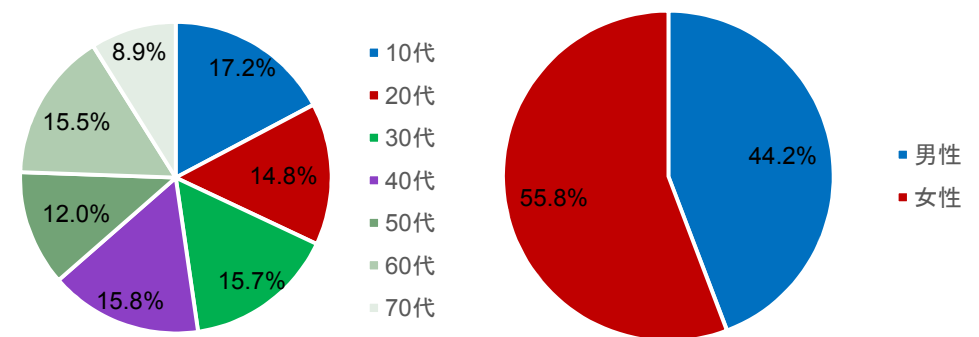
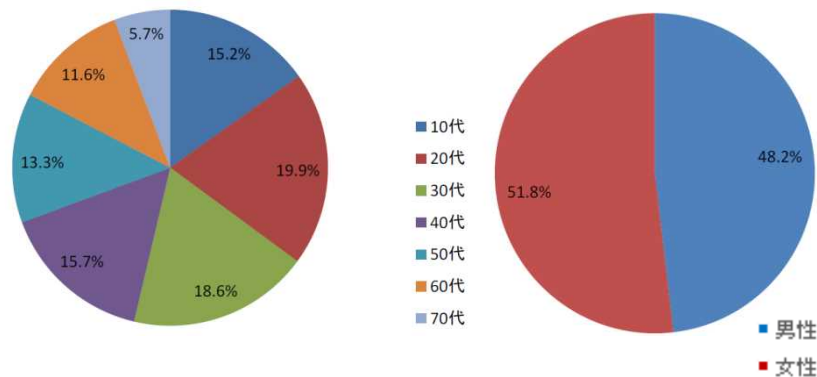
### 【認知度調査の実施状況】

- 提供した情報がどの程度県民に認知されたか把握するため、ヒアリングによる定点調査（認知度調査）を離島含む県内21カ所（1カ所 70人）で実施した。

- ① 調査日 : ステップ3PI終了後(6月20日～29日)
- ② 実施箇所: 地域や年齢に偏りが生じないように、21カ所を設定。

施設	対象者	調査箇所
商業施設	県民一般	計7カ所：北部、中部（東西各1カ所）、那覇市、南部、宮古、石垣
市町村役場	県民一般	計9カ所：北部（東西各1カ所）中部（東西各1カ所）、那覇市 南部（東西各1カ所）、宮古、石垣
大学	学生	計3カ所：北部、中部、南部
観光施設	観光客	計2カ所：沖縄海洋博記念公園、首里城公園

### ③ 回答者の構成等

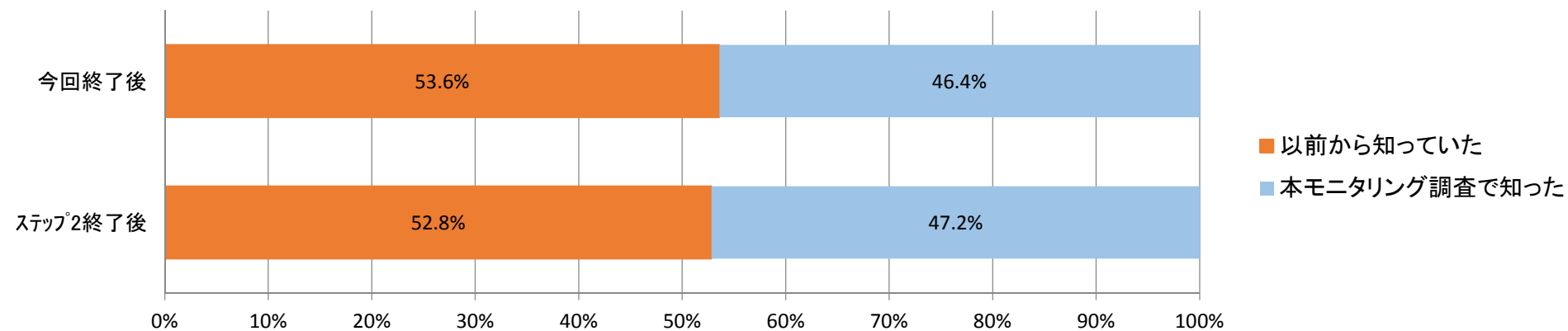


ステップ2PI終了後

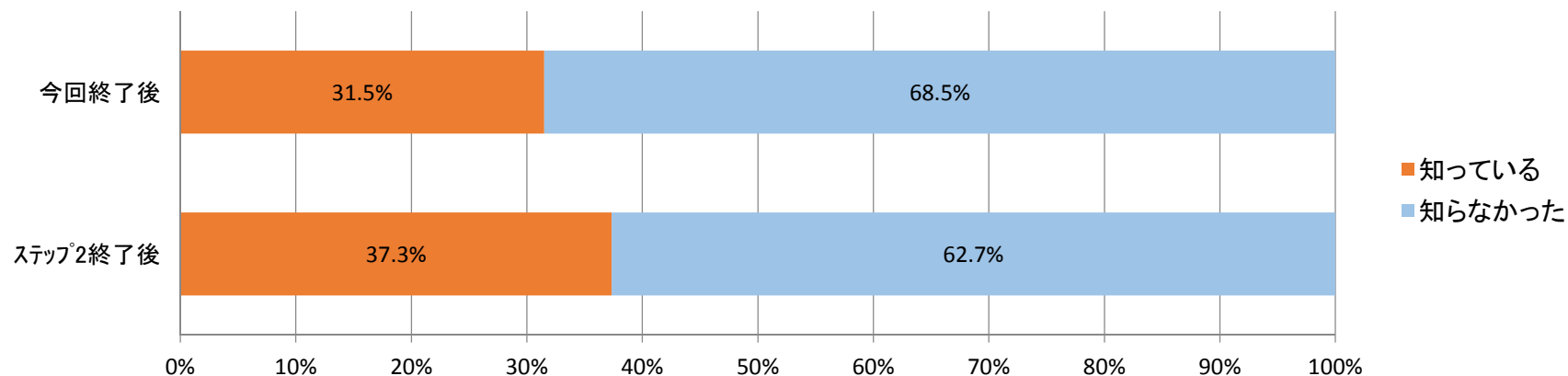
ステップ3PI(今回)

## 【認知度調査の結果】

### ①鉄軌道導入の取組みについて

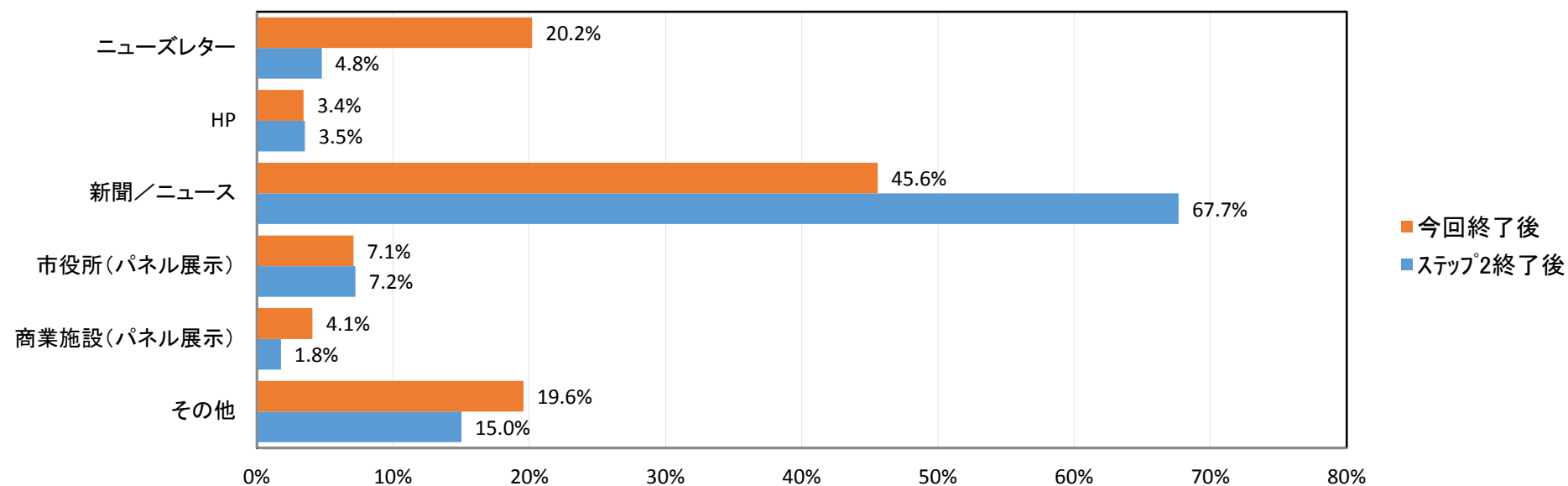


### ②各PIでの取組み状況について

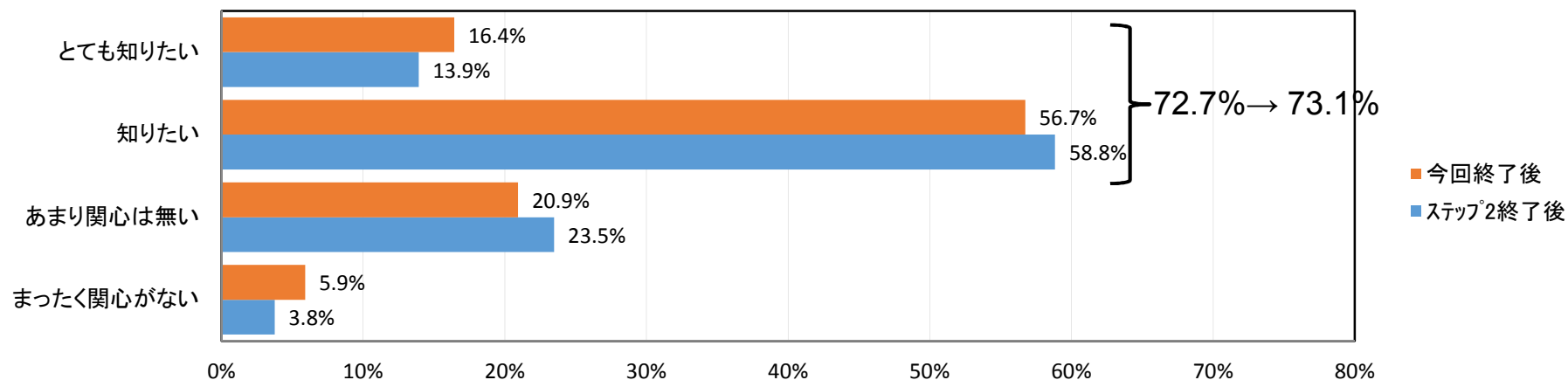




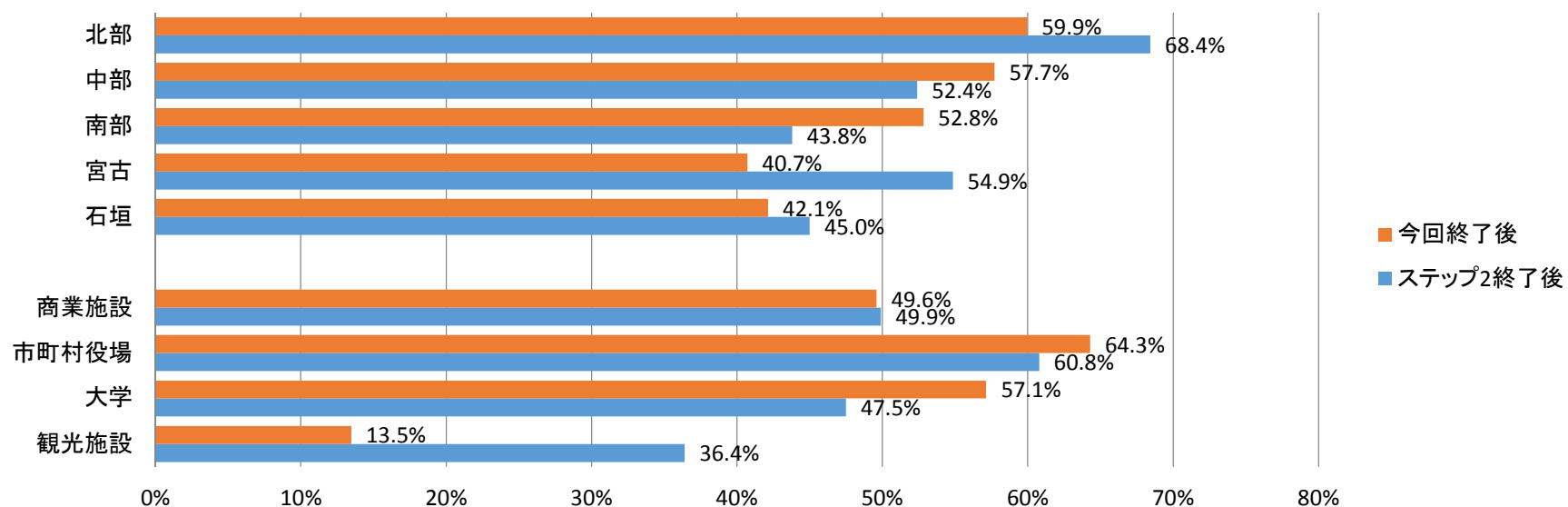
### ③取組み状況について、何で知ったか



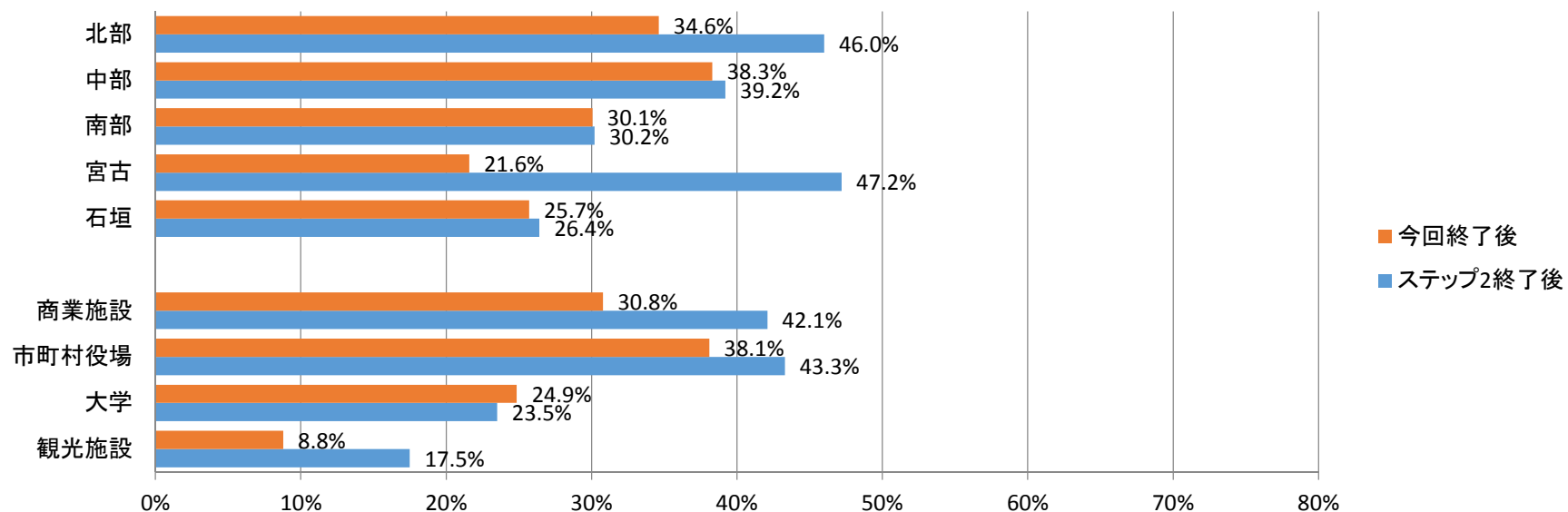
### ④鉄軌道導入の取組みについてもっと知りたいとおもいますか



### ⑤ 沖縄県が、鉄軌道導入の取組みを行っていることについて、以前から知っていたと回答した人の割合



### ⑥ 沖縄県が各ステップで行っている取組みを知っていると回答した人の割合



## (6) 評価

### 【コミュニケーション実施計画と実施の比較】

- ・県の広報媒体を活用し、テレビ番組、広報誌で意見募集を行った。
- ・パネル展示では体の不自由な方への配慮や、離島地域への周知を図るため、今回から新たに病院、離島航路発着地の港でも追加開催した。
- ・意見募集期間中は、専用HPにアンケートバナーを設け、パソコン、スマートフォン等でも意見が提出できるようにした。
- ・ニュースレターは、全戸配布に加えコンビニ、スーパーでも配布した。
- ・県民会議や関係機関等意見交換会、市町村会議は計画どおり実施した。

### 【国内における他事例との比較】

- ・当事業の情報提供は適切に行われていることが確認できた。

### 【コミュニケーション活動への県民の参加】

- ・ニュースレターやパネル展示、ホームページ等から、前回よりも約3千人多い約9千人から意見が寄せられた。

## ・ホームページアクセス

- ①PI(前半)活動期間の1月25日から2月24日までに、延べ2,011回アクセス。
- ②PI(後半)活動期間の5月16日から6月15日までに、延べ3,152回アクセス。

・県内新聞社により本取組みに関する報道がなされ、間接的により広く情報が周知されたと考える。

## 【提供した情報の認知度】

- ・認知度調査によると本取組みに関する認知度は僅かに上昇しているが、具体的な取組みへの認知度が低下していた。
- ・また、取組状況を「ニュースレター」で知った方が大きく増加している。
- ・今回の情報提供にあたっては、前回調査において認知度が低かった中南部地区や大学でのパネル展示を増やした結果、認知度が改善している。引き続き、情報提供について工夫していきたい。
- ・以上のことから、当初計画で予定していた活動は概ね実施したこと、意見数が増加したこと、わずかではあるが、認知度が上昇したこと、ニュースレターにより取組み状況を知った方の割合が増加する等、適切に県民等への情報提供は図られたと評価している。

・今後の改善点

- ①県広報媒体(ラジオ)の積極的な活用
- ②具体的な取組みへの認知度向上に向け、わかりやすい広報を実施していく。
- ③多くの方が「新聞やニュース」で情報を取得している状況を踏まえ、引き続き、報道機関への積極的な情報提供に努める。

## 2-2. 情報内容が適切であったか（情報内容）

### （1）活動結果

- ・計画検討委員会、技術検討委員会の審議は一般公開するとともに、委員会資料は全てホームページ上に公開している。
- ・ステップ3(前半)の「将来の姿が実現した場合の私たちの暮らし」やステップ3(後半)の「骨格軸のルート案(複数)」等の検討内容に関し、県民との情報共有、意見把握を目的に、委員会資料に基づきニュースレターやパネルを作成し情報提供を行った。
- ・ニュースレターについては、プロセス運営委員会での意見を踏まえ、トップページに計画案づくりの目的、現在の検討状況や今後の進め方を示し、初めて計画案づくりを知った方にも理解していただけるよう紙面構成を工夫した。

また、ニュースレター全体のストーリー性への配慮や、配色を統一等を行い、伝わりやすいよう工夫した。

- ・ニュースレター(第4号、第5号)で情報提供した「将来の姿が実現した場合の私たちの暮らし」、「公共交通の役割、取組」や「骨格軸のルート案(複数)」に関する理解度を把握した。

## (2) 情報の開示状況と情報内容

### ①情報の開示状況

#### 沖縄鉄軌道計画案づくりHP

沖縄鉄軌道計画案づくりHP

お知らせ・ニュース

- 2016.5.20 【開催のお知らせ】沖縄鉄軌道市町村会議、県民会議、関係機関等意見交換会
- 2016.5.16 パネル展を開催します（平成28年5月中旬から6月中旬）
- 2016.5.16 『おきなわ鉄軌道ニュース第5号』を掲載いたしました。
- 2016.5.7 第4回プロセス運営委員会の資料を掲載しました。
- 2016.4.25 第4回計画検討委員会の資料を掲載しました。**
- 2016.4.18 【開催のお知らせ】沖縄鉄軌道計画検討委員会及びプロセス運営委員会
- 2016.3.30 第4回技術検討委員会の資料を掲載しました。
- 2016.3.22 第4回 沖縄鉄軌道技術検討委員会の開催について
- 2016.1.25 『おきなわ鉄軌道ニュース第4号』を掲載いたしました。
- 2016.1.21 【開催のお知らせ】沖縄鉄軌道県民会議・市町村会議、関係機関等意見交換会

#### 会議資料

##### 第4回

- 日時 : 平成28年4月19日(火) 14:30~16:30
- 場所 : 県庁11階第1・2会議室
- 会次第 : [PDF 会次第 \(PDF: 36KB\)](#)  
[PDF 名簿 \(PDF: 36KB\)](#)  
[PDF 配席図 \(PDF: 36KB\)](#)
- 配布資料 : [PDF 資料1. 第3回計画・4回技術検討委員会の主な意見とその対応について \(PDF: 140KB\)](#)  
[PDF 資料2. 県民意見の概要 \(PDF: 1750KB\)](#)  
[PDF 資料3-1. 県民意見への対応\(将来の姿\) \(PDF: 368KB\)](#)  
[PDF 資料3-2. 県民意見への対応\(役割及び取組\) \(PDF: 160KB\)](#)  
[PDF 資料3-3. 県民意見への対応\(評価方法\) \(PDF: 152KB\)](#)  
[PDF 資料4-1. 対策案検討の視点 \(PDF: 68KB\)](#)  
[PDF 資料4-2. ルート検討 \(PDF: 2500KB\)](#)  
[PDF 資料4-3. フィーダー交通の検討 \(PDF: 1100KB\)](#)  
[PDF 資料4-4. 公共交通システムの検討 \(PDF: 684KB\)](#)  
[PDF 資料5. 算定に必要な諸条件の設定 \(PDF: 680KB\)](#)  
[PDF 資料6. 検討スケジュール \(PDF: 72KB\)](#)  
[PDF 参考資料1. 県民意見の概要 \(PDF: 188KB\)](#)  
[PDF 参考資料2. 県民等との対話による情報共有 \(PDF: 3320KB\)](#)

「沖縄鉄軌道計画案づくり」HPにより、各検討委員会資料等、すべての資料を公開







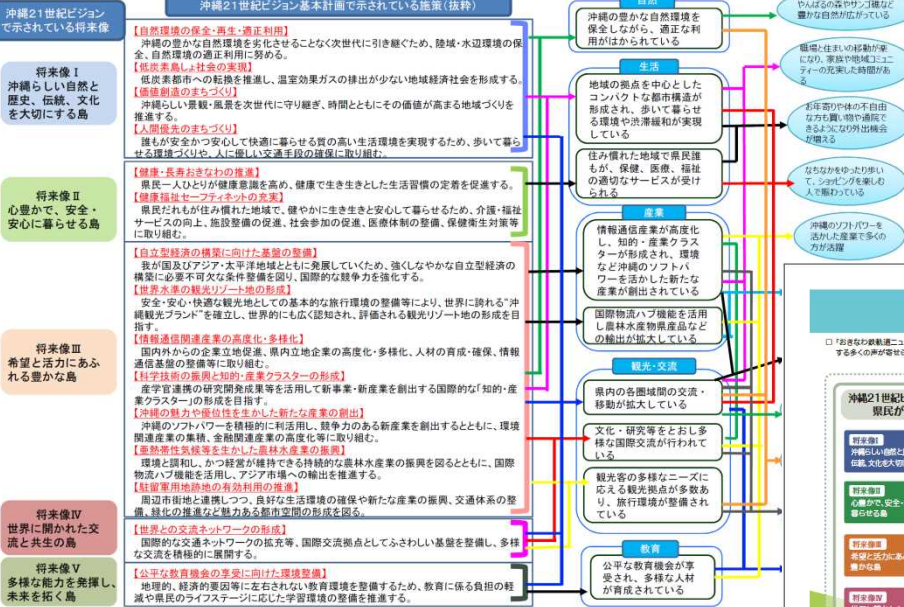
# ③ 県民へ提供した情報内容

## わかりやすい情報提供に向けたニュースレターの工夫

### 委員会資料

#### 3. 将来の姿が実現した場合の私たちの社会環境や暮らしのイメージ

沖縄21世紀ビジョン基本計画で示されている36の基本施策の中から、「おきなわ軌道ニューズ(第3号)」で示した「沖縄本島の将来の姿」に関連する主な分野を抜粋し、将来の姿が実現した場合の私たちの社会環境や暮らしについてイメージしてみた。



将来像Ⅰ  
沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にできる島

将来像Ⅱ  
心豊かで、安全・安心に暮らせる島

将来像Ⅲ  
希望と活力にあふれる豊かな島

将来像Ⅳ  
世界に開かれた交流と共生の島

将来像Ⅴ  
多様な能力を発揮し、未来を拓く島

説明資料を、イラストを用いて、わかりやすくなるよう工夫した。

## 1. 将来の姿が実現した場合の私たちの暮らし

「おきなわ軌道ニューズ(第3号)」で示した「沖縄本島の将来の姿」(以下)について、観光や経済、交通運輸等の移動手段の確保等を期待する多くの課題が指摘されています。一部の方から、私たちの日常がどう変わるかを具体的なイメージが分かるといいというご意見をいただきました。

□ 4~5ページでは、ここでイメージした将来の姿の実現に向けた対策について検討を行います。

**自然**  
沖縄の豊かな自然環境を保全しながら、適正な利用がはかられている

**生活**  
地域の拠点を中心としたコンパクトな都市構造が形成され、歩いて暮らせる環境や洗浄機能とが実現している

**産業**  
情報通信産業が高度化し、知的・産業クラスターが形成され、環境など沖縄のソフトパワーを活かした新たな産業が創出されている

**観光・交流**  
県内の各圏域間の交流・移動が拡大している

**教育**  
公平な教育機会が享受され、多様な人材が育成されている

**将来の姿が実現した場合の私たちの社会環境(イメージ)**

**自然**  
やばるの森やサンゴ礁など豊かな自然が広がっている

**生活**  
職場と住居の移動が楽になり、通勤や地域コミュニティの充実が実現している

**産業**  
海外で売れる商品が市場で拡大し、沖縄ブランドとして売られている

**観光・交流**  
国際会議が開催され、海外から多くの研究者が訪れ、交流が盛ん

**教育**  
沖縄のソフトパワーを活かした産業で多くの人が活躍している

**観光・交流**  
まちなかをゆとり歩いたり、ジョギングを楽しんだりできる

**自然**  
本島内の運動場が拡大し、誰もが気軽に運動できる

**観光・交流**  
新たな観光スポットをめぐる観光客の増加

**教育**  
誰もが学びたい時に学べる環境が整っている

**産業**  
ビジネスで沖縄へ来た人も観光リゾート地へアクセスしやすい

将来の姿が実現した場合、あなたはどんな暮らしをイメージしますか?  
※8ページのアンケート問2で答え下し。

ニュースレター

# 委員会資料

## 2. 評価指標の検討

ステップ2で設定した評価項目について、評価指標の検討を行い、指標の取り扱いについて整理を行う。

評価の視点	評価項目	評価指標	指標の取り扱い
県土の均衡ある発展	南北間の速達性の確保	・那覇～主要都市間の所要時間	●
	南北間の交流人口	・鉄軌道の有無による地域間移動の変化	●
	通勤・通学圏域の拡大	・拠点都市から30分(60分)圏域内人口	●
	県民利用者数	・鉄軌道の県民利用者数	●
高齢者を含めた県民及び観光客の移動利便性の向上	観光客利用者数	・鉄軌道の観光客等利用者数	●
	県民の外出機会の増加	・鉄軌道の有無による外出頻度の変化	●
	交通事故減少	・交通事故削減便益	費用便益分析で算出されるため「費用便益比」の中で示す。
	フィーダー交通ネットワーク構築に伴う公共交通利用者数	・公共交通利用者数	●
中南部都市圏の交通渋滞緩和	公共交通への利用転換量	・公共交通への転換者数	●
	道路混雑度	・道路混雑緩和便益	費用便益分析で算出されるため「費用便益比」の中で示す。
世界水準の観光リゾート地の形成	観光まちづくりへの寄与	・観光まちづくりへの寄与を含むまちづくりへの定性的評価	まちづくりに関する指標のため「まちづくりへの寄与の定性的評価」の中で示す。
	観光客の移動範囲の拡大	・那覇～主要観光地間の所要時間	●
駐留軍用地跡地の活性化	駐留軍用地跡地における公共交通利用者数	・駐留軍用地跡地における公共交通の利用者数	●
	まちづくりへのインパクト	・まちづくりへの寄与の定性的評価(駐留軍用地跡地の活性化、観光まちづくり含む)	●
低炭素社会の実現	二酸化炭素排出量	・CO <sub>2</sub> 排出量削減便益	費用便益比の中で示す。
費用便益分析		・費用便益比	
採算性分析	経営採算性	・累積資金収支黒字転換年	
経済性	事業費	・事業費	
施工性	施工に伴う課題、影響(導入空間の確保、自動車交通等への影響等)	・地形的・地盤的課題 ・導入空間確保及び自動車交通への影響	※事業性をとりま
	事業期間	・事業期間	
事業の実施環境の評価	用地確保の方法	・用地確保の課題	
環境への影響	自然環境(動植物や地下水、地形等)	以下の項目の影響内容・対策 ・重要な動物・植物、生態系 ・地下水 ・重要な地形・地質 ・人と自然との触れ合い活動の場 ・歴史的・文化的環境	※環境をとりま
	生活環境(騒音・振動)	・鉄軌道の走行に伴う騒音の影響内容・対策 ・鉄軌道の走行に伴う振動の影響内容・対策	
	その他	景観への影響及び配慮事項等	
災害	耐災害性	津波、土砂災害等の被害規模等を考慮した配慮事項	※事業性をとりま

内容をシンプルにし、わかりやすくなるよう工夫した。

## ニューズレター

## 3. 評価指標について

**ステップ3では「評価指標」を設定します**

4～5ページの「2. 対策案検討の基本的考え方」に基づいて検討する複数の対策案の中から、より良い案を基にどの案のどの点で優れているかを比較する必要があります。

そのため、ステップ2では、複数の対策案を比較するための評価の視点(評価項目)を、県民の皆さまからご意見をいただきながら、検討しました。

ステップ3では、ステップ2で設定された評価の視点ごとに、評価の「ものさし」となる評価指標を設定します。

ステップ4以降では、ステップ3で検討された複数の対策案について、評価の「ものさし」を用いて比較評価し、より良い案を決定していきます。

なお、対策案は、5ページの「対策案検討の進め方」とおりの骨格軸を柱に、フィーダー交通についても骨格軸の機能発揮に資する観点から検討を行うことから、評価はフィーダー交通による効果を含め、骨格軸について行います。また、本計画案の検討は、複数のルート等について検討を行う複数案制にあることから、複数の対策案の評価にあたっては、県民と情報共有を図りながら、相対的な比較優位性を中心に確認を行います。

**評価指標は、評価の「ものさし」!**

①「評価の視点(評価項目)」ごとに、いくつかの「評価指標」を設定しているよ。  
②「評価指標」とは、実施する対策の効果等を測る「ものさし」なんだ。  
③この「ものさし」で測ることで、対策案それぞれの特徴がわかるんだよ。

右のページに、評価の視点ごとに、設定した評価指標の説明があるので見てね!

**LOOK!**

**評価指標(ものさし)の内容**

事業の効果・影響 → ○対策案ごとに、事業の目的が達成されるのか、また、どのような効果・影響があるかを、将来の姿の実現等を図る観点から設定された以下の(1)～(5)の視点で整理。

(1) 県土の均衡ある発展  
○那覇～主要都市間の所要時間  
・那覇と主要都市間の所要時間を算出し、那覇市からの移動時間を確認  
○拠点都市から30分(60分)圏域内人口  
・拠点都市から30分(60分)圏域内の人口を算出し、通勤や通学ができる範囲を確認 など

(2) 県民などの移動利便性の向上  
○県民及び観光客の公共交通利用者数  
・県民及び観光客の公共交通利用者数を予測する など

(3) 公共交通の整備による交通渋滞緩和  
○公共交通への利用転換者数  
・自動車利用から公共交通利用へ転換する人数を予測し、交通渋滞緩和への寄与の程度を確認 など

(4) 世界水準の観光リゾート地の形成  
○那覇～主要観光地間の所要時間  
・那覇と主要観光地間の所要時間を算出し、観光客の移動時間を確認 など

(5) まちづくり  
○まちづくりへの寄与(インパクト)  
・公共交通と連携した基地跡地のまちづくりに寄与できるか確認  
・観光振興を支えるまちづくりに寄与できるか確認 など

費用便益分析 → ○費用便益比  
・道路混雑緩和や所要時間の短縮などの便益を貨幣価値に換算して、事業費(費用)と比較

採算性分析 → ○累積資金収支黒字転換年  
・事業主体が黒字になるか、何年後に黒字化するか

事業性 → ○事業費  
・事業費ほどの程度か  
○工事期間  
・工事期間ほどの程度か  
○事業実施にあたっての留意事項  
・地形や地盤、用地の確保、災害などの課題に対して配慮することは何か

環境 → ○環境への影響及び配慮事項  
・自然環境や生活環境等への影響について、配慮することは何か

**コラム: 那覇空港の第2滑走路も複数案を比較評価しました**

いくつかの対策案を評価指標を用いて比較評価する方法は、公共事業で一般的に行われています。

現在建設が進められている那覇空港の第2滑走路も、建設案を検討する際に「評価指標」を用いて複数案を比較評価しました。

「那覇空港プロジェクト」における構想段階の取組や現在の進捗状況の詳細については、以下のホームページをご覧ください。  
<http://www.dco.goh.go.jp/kyusyu/information/nyakuaku/>

那覇空港第2滑走路建設後のイメージ

※評価指標の詳細については、民間設計委員会・公設設計委員会の資料をご覧ください(ホームページに掲載)。



意見募集がわかりやすく質問を中央に大きく表示した。

ニュースレター

## 1. 骨格軸のルート案(複数)の検討

「おきなわ軌道ニュース(第4号)」で県民の皆さまと確認した「将来の姿の実現等に向け求められる公共交通の役割」を踏まえ、骨格軸のルート案を検討しました。

### 将来の姿の実現等に向け求められる公共交通の役割

～「圏域間連携の強化」・「移動利便性の向上」・「交通の円滑化」・「交通渋滞の緩和」・「まちづくりの支援」～

### ルート案検討の視点

#### (1) 公共交通軸の構築

・那覇と名護間を利便性の高い公共交通ネットワークの骨格軸として設定

#### (2) 多くの人が利用できる地域を経由

・多くの人が住んでいる地域、働いている地域  
 ・多くの県民、観光客が移動している地域  
 ・バス利用者が多い地域  
 ・宿泊施設(客室数)が多い地域

#### (3) 自動車交通が集中している地域を経由

・自動車などの交通量が多い地域

#### (4) まちづくり支援

・地域の開発計画などを考慮

上の(1)～(4)の視点に加え、採算性を考慮した検討を行う。

#### ※留意事項

骨格軸は速達性を重視することから、極端な大回りとならないよう留意する。

#### おきなわ軌道ニュース(第4号)で示した「公共交通の役割」

圏域間連携の強化	広域的地域圏の形成に向け、那覇と名護間における骨格性、速達性(1時間)定時性などを備えた公共交通軸の構築による圏域間連携の強化
移動利便性の向上	公共交通の有機的連携による県民や観光客の移動利便性の向上
交通の円滑化	県民や観光客の交通流動が多い地域における交通の円滑化
交通渋滞の緩和	自動車交通が集中する地域における交通渋滞の緩和
まちづくりの支援	中南部都市圏の都市圏形成支援やまちづくりとの連携等

※H28年1～2月の意見募集で頂いた県民意見を踏まえ、上記役割を果たすために必要な視点として「特種可能性の観点から、採算性(利用促進を含む)を考慮した公共交通」を追加しました。

ルート案(A～D案) 現在のステップでは、複数のルート案を設定する段階です。今後、ステップ4以降で、ルート案について比較評価し、より良い案を選定していくこととしています。

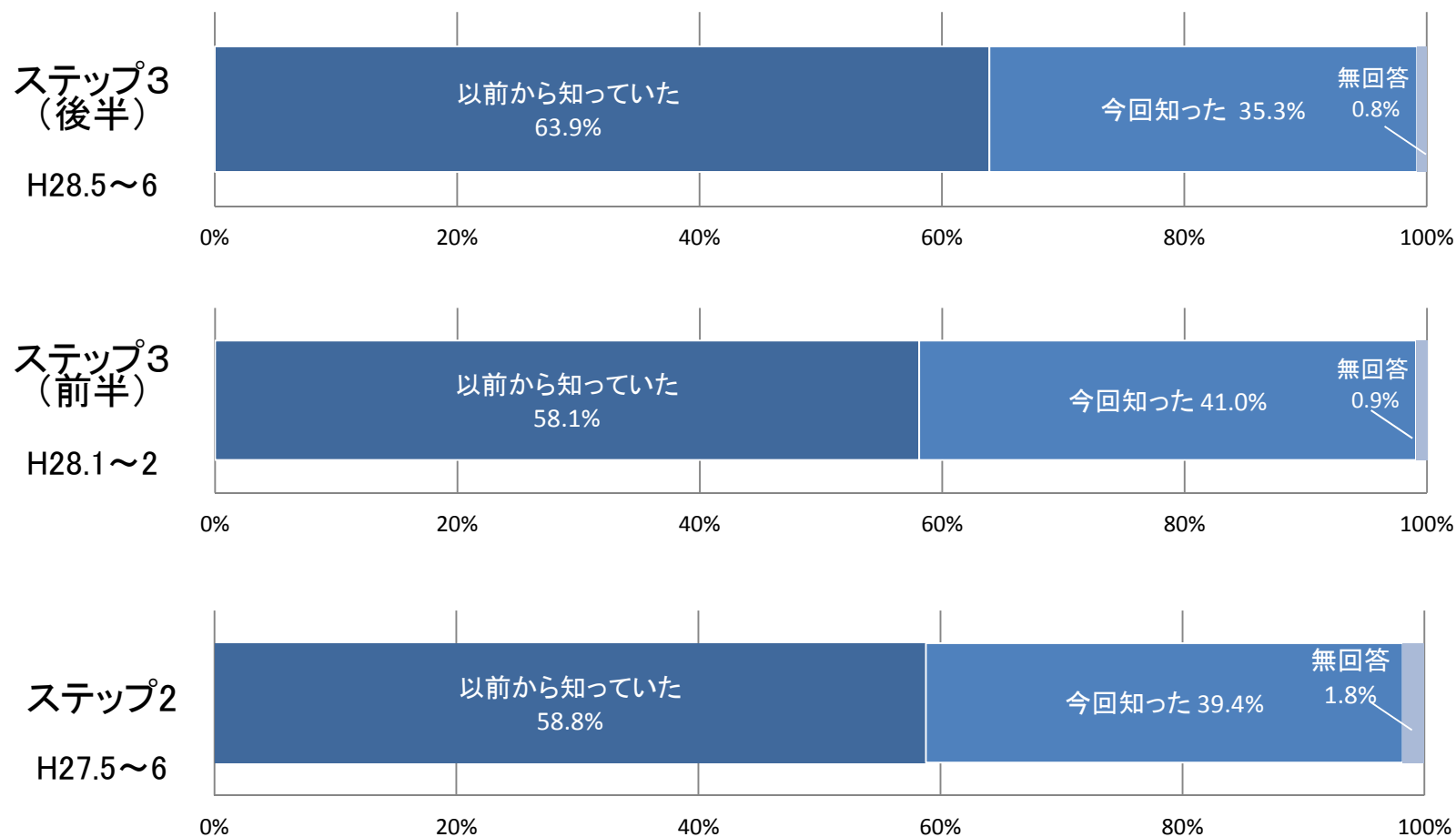
**あなたのご意見をお聞かせください。**  
**4つのルート案の他にも、どういうルート案が考えられますか?それは、どのような理由からですか?**  
 \*8ページのアンケート問2でお答えください。

C案: 中部東・北部西ルート(約63km)

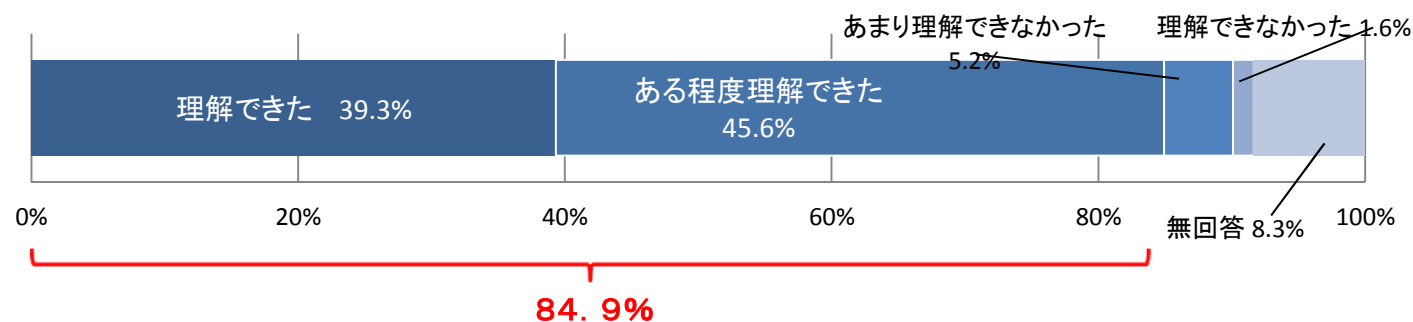
D案: 中部東・北部東ルート(約67km)

### (3) 提供した情報の理解度

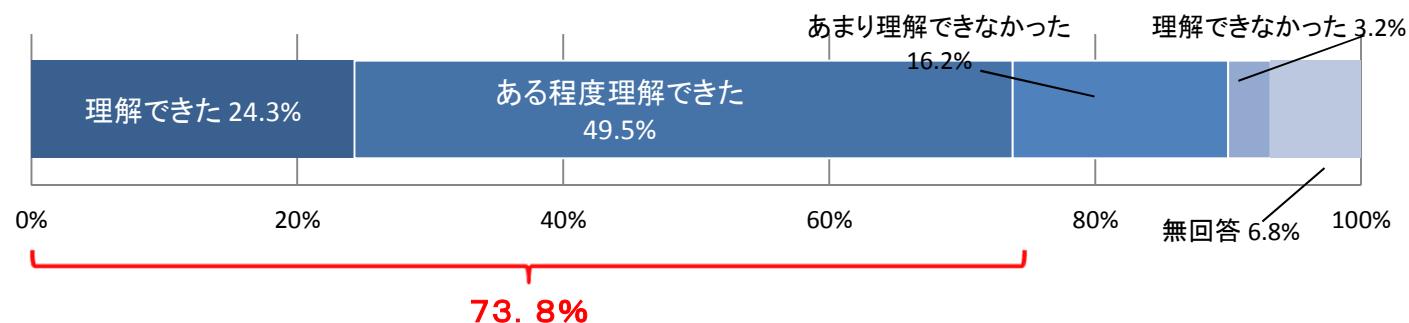
【問】沖縄県が、鉄軌道導入の取組みを行っていることについて  
(ニューズレター、パネル展示及びホームページからのアンケートにより)



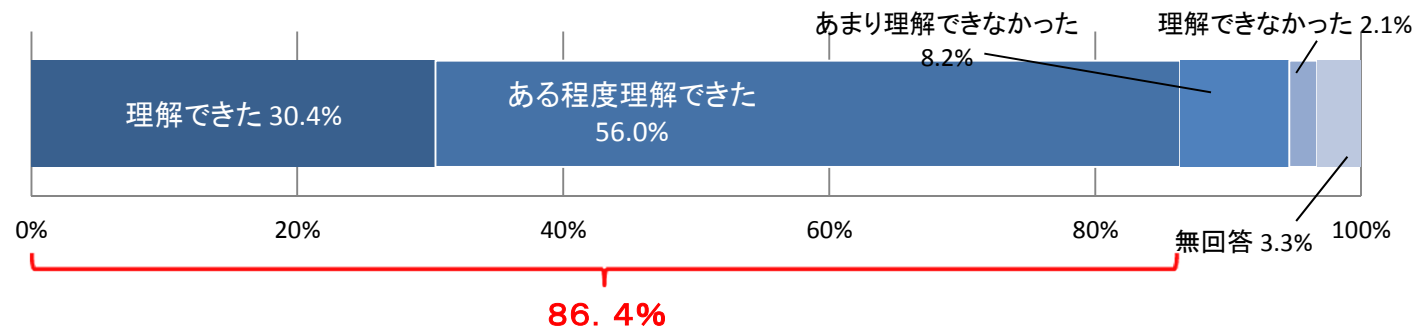
### 【問】骨格軸のルート案(複数)の検討について (ステップ3後半)



### 【問】将来の姿や陸上交通の現状からもとめられる公共交通の役割、取組(ステップ3前半)



### 【問】将来の姿が実現した場合の私たちの暮らしについて (ステップ3前半)



## (4) 評価

- ・ニュースレターにおいては、委員会で審議した内容を、イラストの活用、全体的なストーリー性を考慮するなど、わかりやすく情報提供した。

寄せられた意見によると、

- ・ニュースレター等で県民へ情報提供した「将来の姿が実現した場合の私たちの暮らし」、「公共交通の役割、取組」や「骨格軸のルート案(複数)」等について、約7割～8割の方が「理解できた」「ある程度理解できた」としている。
- ・一方、約1割の方から「理解できなかった」「あまり理解できなかった」との回答があった。
- ・寄せられた意見からは、「子どもからお年寄りまで誰もが理解しやすいよう、かみ砕いた表現等を活用するなどわかりやすく情報提供してほしい」という意見もあることから、引き続き、ニュースレターの作成等においてわかりやすい表現などに努める必要がある。
- ・以上により、情報は全て公開されていること、検討項目に漏れがなく情報提供し、ニュースレターで確認した「骨格軸のルート案(複数)」等に関する理解度も高いことから、情報内容は適切であったと評価できる。

・今後の改善点

- ①ニュースレター等において、幅広い年齢層に理解していただけるよう、わかりやすい情報提供に、引き続き努める。

## 2-3. 県民等との対話が適切に図られたか(対話)

### (1) 活動結果

・県民との情報共有、意見把握のため県民会議、市町村会議、関係機関等意見交換会を設置した他、オープンハウスを開催することにより、県民等との対話を実施した。

対話手法	参加者数		備考
県民会議	前半	24名	
	後半	18名	
市町村会議	前半	22市町村	
	後半	24市町村	
関係機関等意見交換会	前半	16機関・団体	
	後半	16機関・団体	
オープンハウス	前半	258名	11か所、14回
	後半	760名	11か所、16回



## (2) 県民会議、市町村会議、関係機関等意見交換会、 オープンハウスの実施状況

### ○第2回沖縄鉄軌道県民会議（前半）

開催時期：平成28年1月30日（土）11：00～16：00

場 所：名桜大学 学生会館SAKURAU M

形 式：グループ討議形式（1グループ 4～5名 計5グループ）

参加者：24名出席（北部5名 中部10名 南部9名）

性別 男20名 女4名

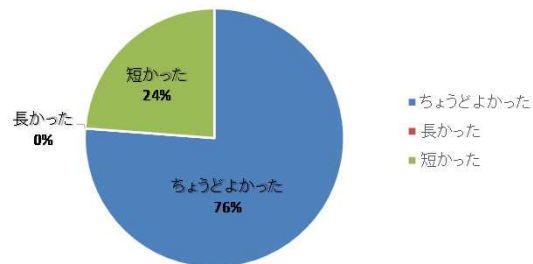
年代 20代 9名 30代 2名 40代 2名

50代 5名 60代 5名 70代 1名

内 容：事務局（県）から、ステップ3（前半）の検討内容について、  
ニューズレター等を用いて説明を行った後、各グループ毎に  
参加者が意見交換を行った。

## アンケート結果（概要）：回収数22人（参加者29人）

問1：本日のグループ討議の時間（135分間）はいかがでしたか？



問2：本日の県民会議の進め方について感想等がありましたらお聞かせ下さい？

①時間に関すること	<ul style="list-style-type: none"><li>・時間配分において、議論する時間を増やしてもいいと思った</li><li>・前回と比べてグループ討議の時間が長く、多くの新しい視点を獲得することができて良かった 等</li></ul>
②グループ体制に関すること	<ul style="list-style-type: none"><li>・参加意識が高まり、各自の意見が集約しやすいので、班ごとの討議の進行は素晴らしかった</li><li>・班に分かれ、色々なグループの発表を聞き、問題点や良い点が見えてきたので、とても勉強になった 等</li></ul>
③グループ討議進行及び内容に関すること	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な視点からの話が聞けて良かった</li><li>・県民愛が強く、沖縄県を想っての発言が多かったと感じた。実現してほしい 等</li></ul>
④その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・県職員もテーブルに加わったり、参加者が資料、文具配りをしたり、より対等な雰囲気づくりがあるといいと思った。</li><li>・説明の仕方、記載の仕方が難しく、伝わらないことが多いことがあるかもしれないが、県民会議の内容も加えて、県民に、鉄軌道と公共交通について伝えてほしい 等</li></ul>

### ○第3回沖縄鉄軌道県民会議（後半）

開催時期：平成28年6月4日（土）13：00～17：00

場 所：沖縄県中部合同庁舎 4階会議室

形 式：グループ討議形式（1グループ 4～6名 計4グループ）

参加者：18名出席（北部5名 中部7名 南部6名）

性別 男13名 女5名

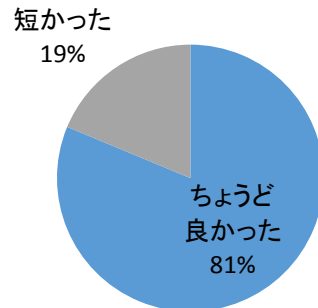
年代 20代 2名 30代 1名 40代 5名

50代 4名 60代 5名 70代 1名

内 容：事務局（県）から、ステップ3（後半）の検討内容について、ニュースレター等を用いて説明を行った後、各グループ毎に参加者が意見交換を行った。

## アンケート結果（概要）：回収数16人（参加者18人）

問1：本日のグループ討議の時間（150分間）はいかがでしたか？



問2：本日の会議の運営はいかがでしたか。良かった点、改善してほしい点についてお答え下さい？

①グループ体制に関すること	・それぞれの班で議論して案を出してみるといろんな案が出たので全員が満足する案は無理ではないかと感じた。決定権者が多少強引にでも決定したほうがよいのかも。早く決定してもらいたい 等
②グループ討議進行に関する こと	・職員さんの配置は大変助かりました ・資料を1冊にしていただけると助かります ・資料が多くて論点が少し見えにくかった
③その他	・傍聴者への配慮をもう少し具体化したほうがよいとおもいます 等

## ○市町村会議

### <内容>

事務局（県）から、ステップ3の検討内容について情報提供を行った後、意見交換を行った。

### [前半]

開催時期：平成28年2月3日（水）

場所：沖縄県中部合同庁舎 4階会議室

参加市町村：22市町村（参加者：各市町村担当課長等）

- ・ 北部：国頭村, 大宜味村, 東村, 本部町, 恩納村, 宜野座村
  - ・ 中部：沖縄市, うるま市, 宜野湾市, 読谷村, 嘉手納町, 北谷町, 北中城村, 西原町
  - ・ 南部：那覇市, 浦添市, 糸満市, 豊見城市, 南城市, 与那原町, 南風原町, 八重瀬町
- ※欠席：名護市, 金武町, 今帰仁村, 中城村

### [後半]

開催時期：平成28年5月23日（水）

場所：沖縄県南部合同庁舎 5階会議室

参加市町村：24市町村（参加者：各市町村担当課長等）

- ・ 北部：名護市, 国頭村, 大宜味村, 東村, 本部町, 恩納村, 金武町, 宜野座村
  - ・ 中部：沖縄市, うるま市, 宜野湾市, 読谷村, 嘉手納町, 北谷町, 北中城村, 中城村, 西原町
  - ・ 南部：那覇市, 浦添市, 糸満市, 豊見城市, 南城市, 与那原町, 八重瀬町
- ※欠席：今帰仁村, 南風原町

## ○関係機関等意見交換会

### <内容>

事務局（県）から、ステップ3の検討内容について情報提供を行った後、意見交換を行い各機関が抱える交通の課題やニーズ等について意見を聴取した。

### [前半]

開催時期：平成28年2月10日（水）

場 所：沖縄県南部合同庁舎 5階会議室

参加者：道路管理者、交通事業者、経済・観光団体など計16機関・団体

### [後半]

開催時期：平成28年5月23日（水）

場 所：沖縄県南部合同庁舎 5階会議室

参加者：道路管理者、交通事業者、経済・観光団体など計16機関・団体

交通事業者	一般社団法人沖縄県バス協会	市民団体	一般社団法人トラムで未来をつくる会
	沖縄都市モノレール株式会社		NPO法人しまづくりネット
	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会		環金武湾地球温暖化対策地域協議会
	一般社団法人沖縄県レンタカー協会		沖縄県環境部環境政策課(H28年度環境再生課)
経済・観光団体	沖縄県商工会議所連合会	行政機関 (道路管理者等)	沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課
	一般財団法人沖縄県観光コンベンションビューロー		沖縄県土木建築部道路街路課
生活・交通弱者	一般社団法人沖縄県婦人連合会		沖縄県土木建築部道路管理課
	NPO法人バリアフリーネットワーク会議		沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課

## ○ オープンハウス

### <内容>

パネル展示会場にて、県職員が来場者へパネルやニュースレターの内容を説明した後、本取組みに関するアンケート調査を行った。

### [前半]

開催時期：平成28年1月25日～2月24日 11か所にて開催(14回)

開催場所：名護市役所、浦添市役所、宮古島市役所、石垣市役所、  
うるま市健康福祉センターうるみん、道の駅許田交通情報センター、  
イオン具志川、サンエー豊見城ウイングシティ、  
沖縄国際大学、沖縄大学、沖縄工業高等専門学校

参加者数：計258名

### [後半]

開催時期：平成28年5月16日～6月15日 11か所にて開催(16回)

開催場所：宮古島市役所、石垣市役所、道の駅ゆいゆい国頭、イオン名護、  
イオン具志川、イオン北谷、イオン那覇、イオンタウン南城大里、  
琉球大学、沖縄女子短期大学、沖縄キリスト教学院大学

参加者数：計760人

### (3) 評価

- ・ 県民会議、市町村会議、関係機関等意見交換会は、予定どおり実施し、意見交換を行い多くの意見を頂くことができた。(参考資料1)
- ・ オープンハウスで多くの県民等へ直接対話し、内容の理解を深めてもらうとともに、多くの意見を頂くことができた。
- ・ 直接対話ではないものの、地元紙により県民等のさまざまな意見が報道されたことで、マスメディアを通じた対話もなされた。
- ・ 県民会議のグループ討議の時間について、討議時間を増やしたところ、第2回、第3回ともにちょうど良かったとの意見が多くを占めて改善されている。

以上により、オープンハウスや県民会議などを通して、県民等との対話が図られたと評価している。

なお、県民会議等において、活発な議論が図られるよう引き続き運営改善に取り組むこととする。



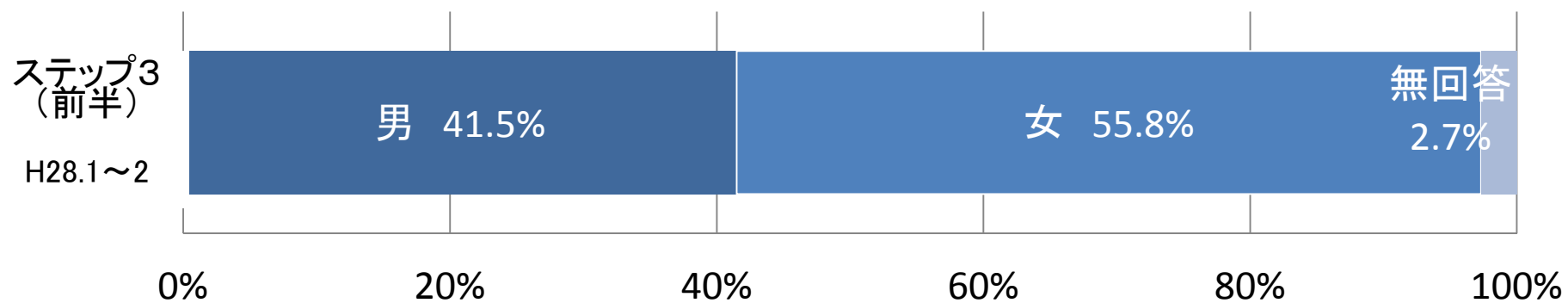
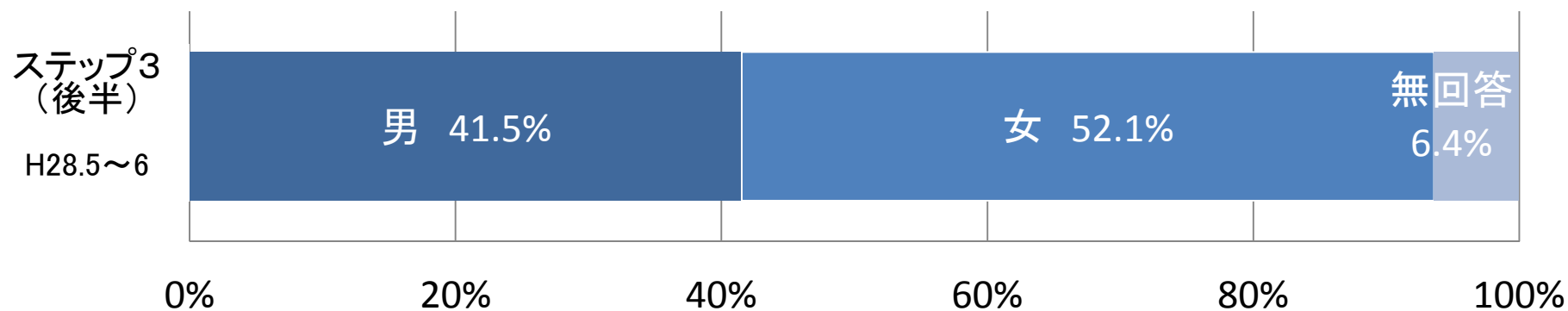
## 2-4 幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか（対応）

### （1）活動結果

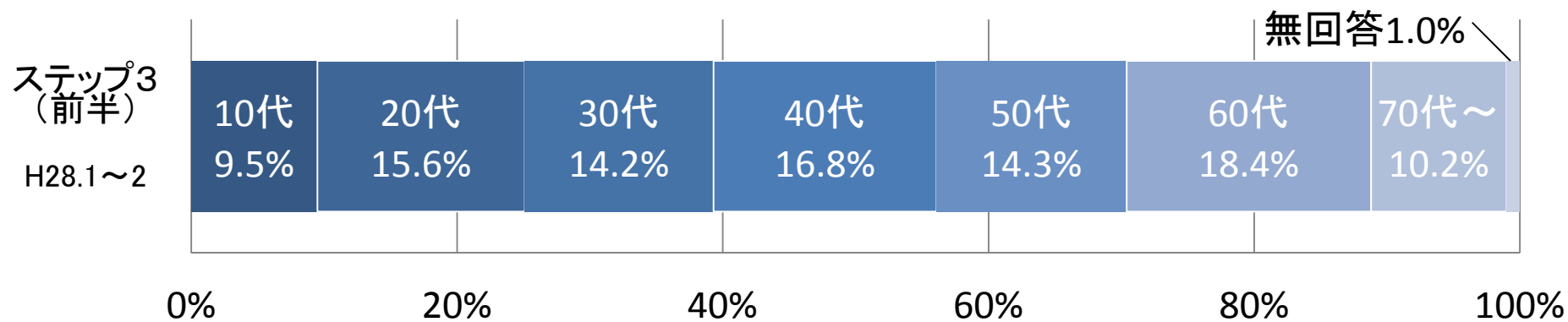
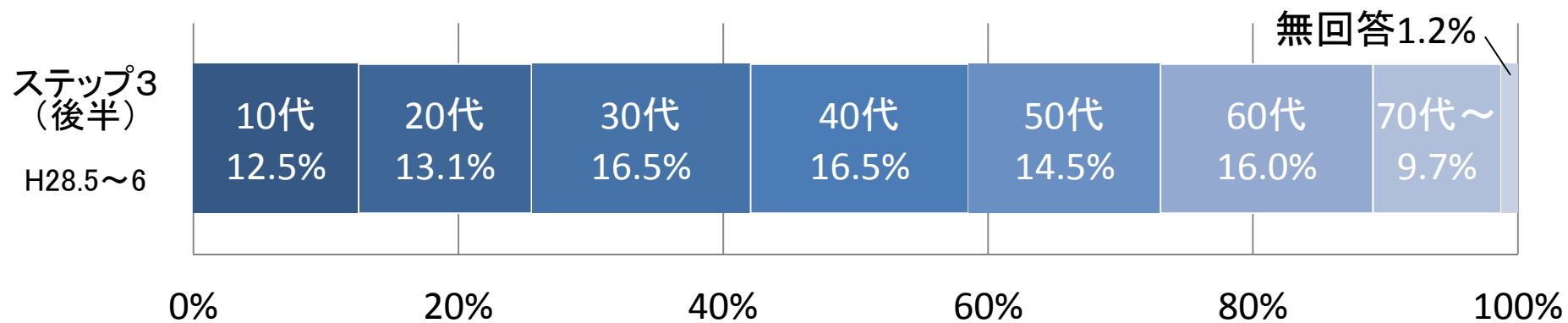
- ・ ステップ3の検討項目について、県民等から幅広く意見を収集できているか確認するため、アンケート回答者の属性（性別、年齢構成）や、県民意見、県民会議、市町村会議、関係機関等意見交換会で頂いた意見をカテゴリー別に分類し、整理した。
- ・ 分類、整理した項目は以下のとおり、
  - ① 検討プロセスに関する意見  
（コミュニケーション活動に関する意見、検討の進め方に関する意見 等）
  - ② 対策案に求める・期待する効果に関する意見  
（県民生活、移動利便性向上、車依存型社会からの脱却に関する意見 等）
  - ③ 骨格軸、フィーダー交通に関する意見  
（骨格軸のルート検討、フィーダー交通の検討、システムに関する意見 等）
  - ④ 既存の公共交通の充実等に関する意見  
（公共交通への利用転換に向けた取組、バスの利便性向上 等）
  - ⑤ 道路整備・まちづくりに関する意見
  - ⑥ その他意見
- ・ 上記の項目により幅広く意見を収集したことを確認し、対応案を作成した（資料5）。

## (2) 意見を寄せた方の属性

### 《性別》

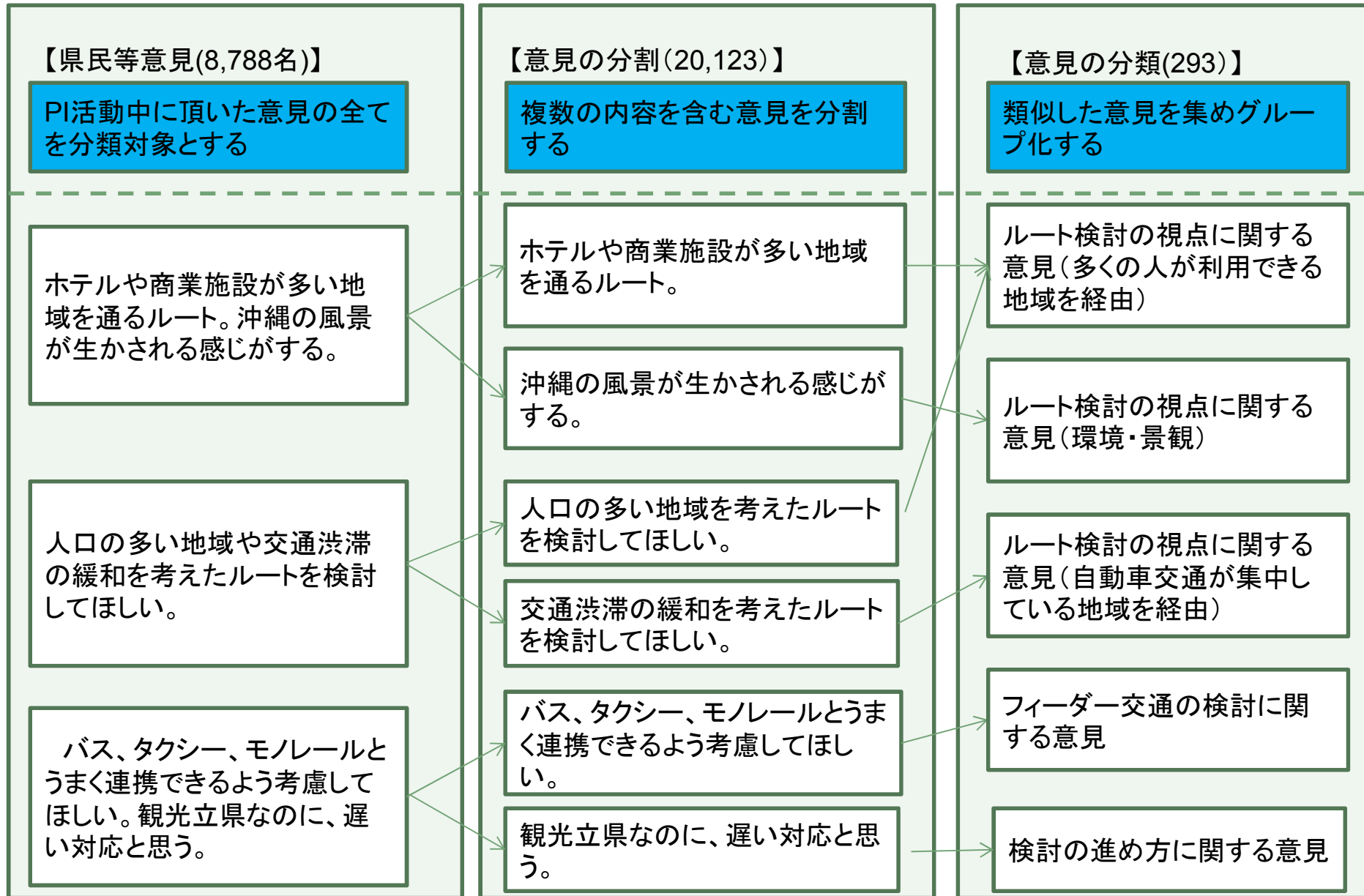


## 《年齢》



### (3) 意見の把握

分類イメージ



# (4) 寄せられた意見の分類 及び意見概要のとりまとめ

## 【県民等意見】

人口の多い地域や交通渋滞の緩和を考えたルートを検討してほしい。

## 【意見の分割】

人口の多い地域を考えたルートを検討してほしい。

交通渋滞の緩和を考えたルートを検討してほしい。

## 【意見の分類】

多くの人が利用できる地域を經由

自動車交通が集中している地域を經由

大分類	中分類	小分類	意見数	意見概要
骨格軸のルート検討に関する意見	骨格軸のルート検討の視点に関する意見	公共交通軸の構築に関する意見	22	那覇一名護を1時間で結んでほしい、名護まで整備してほしいとする意見
			11	那覇一名護を1時間より速く結んでほしいとする意見
			5	那覇一名護を1時間で結ぶ必要はないのではないかとする意見
			10	那覇と名護を結んでほしいとする意見
			56	早くつくルートがほしい、時間短縮可能なルートにしてほしいとする意見
			26	今まで行ったことがない遠い地域に行くことができるようなルートにしてほしいとする意見
			1	(関係機関等意見交換会意見)
			1	生活者としては、北部へ行くのは遠く感じるが、鉄軌道ができることによって改善されると思われる
			1	観光面や県民利用の面でも、北部への移動しやすさの改善、渋滞解消といったメリットが大きいと考える
			20	名護までは要らないとする意見
			432	多くの人が利便性を享受できるように、多くの人が利用できる地域を經由することに関する意見
			880	自分自身にとって良く行く場所・行く機会が多い場所を通るルートにしてほしいとする意見
			70	県民にとって利便性が高い、人口が多く利用者が多い、生活に便利なルートにしてほしいとする意見
			4	多くの市町村を經由するルートにしてほしいとする意見
			1033	4 雇用に資するルートにしてほしいとする意見
			146	自分が住んでいる地域等特定の地域、学校や商業施設等特定の施設を經由してほしいとする意見
			130	国道58号や高速道路等がある地域は、既に便利だからルート検討から外すべきとする意見、又は国道58号等が無く不便だからルート検討に当たり考慮すべきとする意見
			174	バス路線が十分な地域は既に便利だからルート検討から外すべき、又はバス路線が不十分な地域は、ルート検討に当たり考慮すべきとする意見
			28	交通の充実による交流拡大、利便性向上等、南北、西高東低等、地域格差が是正できるようなルートを求める意見、各地域まんべんなく通して全地域便利にしてほしいとする意見
			557	交通の充実により東西横断が可能、東西の地域連携が可能な、横断に便利なルートにしてほしいとする意見
			9	観光客にとって導線が良い、便利、車を使わずに移動できる、多くの観光地等を經由できるルートにしてほしいとする意見
			347	観光客はレンタカーを利用するため鉄軌道は利用しないのではないかとする意見
			73	県民や観光客、いずれにも便利、多くの人が利用できるルートにしてほしいとする意見
			1	観光客より県民を重視するルートにすべきとする意見
			1	(県民会議共通意見)
			1	ルートの考え方として、人口や観光等をベースに検討されていることは適切である
			1	ルートは、県民、観光客を含め、需要の高い主要施設又は人の集まると予想される箇所など需要を考慮すべき
			453	自動車交通が集中している地域を經由することに関する意見
			11	交通渋滞の緩和が図られる、交通量が多い場所を經由するルートにしてほしいとする意見
			27	まちづくり支援に関する意見
			325	跡地を活用することによるまちづくりを求める意見
			49	西海岸地域の活性化に資するルートを求める意見
			24	東海岸地域の活性化に資するルートを求める意見
			41	北部の活性化に資するルートを求める意見
			102	中部の活性化に資するルートを求める意見
			85	南部の活性化に資するルートを求める意見
			87	沖縄振興、まち・地域の活性化に資するルートにしてほしいとする意見
			2	需要が多く確保できるルート、採算性の確保が可能なルート、ランニングコストが少ないルートにしてほしいとする意見
			236	延長が短いルートが良い、短くしてほしいとする意見
				延長が長くも短くもないから良いとする意見
				提示した複数の視点(県民、観光客、渋滞緩和、まちづくり)を踏まえたルートにしてほしい



# (5) 寄せられた意見への対応方針

大分類	中分類	小分類	意見数	意見概要	意見への対応
骨格軸のルート検討に関する意見	骨格軸のルート検討の視点に関する意見	公共交通軸の構築に関する意見	22	那覇一名護を1時間で結んでほしい、名護まで整備してほしいとする意見	<p><b>各意見に対する対応方針を示している(資料5)</b></p> <p>県民の皆さまから寄せられた「ルート案等検討の視点に関する意見」は、「公共交通の役割を踏まえた検討の視点に関する意見」と、「評価項目で設定している視点に関する意見」に分類・整理しました。</p> <p>公共交通の役割を踏まえた検討の視点に関する意見では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通軸の構築</li> <li>多くの人が利便性を享受できるように、多くの人が利用できる地域を經由</li> <li>自動車交通が集中している地域を經由</li> <li>その他留意事項として、採算性及び極端な大回りとならないよう考慮することを求める意見が寄せられました。</li> </ul> <p>そのうち、公共交通軸の構築については、名護までは要らないとする意見や那覇と名護を1時間で結ぶ必要は無いとする一部の意見もありましたが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>那覇と名護を1時間で結んでほしい、名護まで整備してほしいとする意見</li> <li>那覇と名護を1時間より早く結んでほしいとする意見</li> <li>今まで行ったことがない遠い地域に行くことができるようなルートにしてほしいとする意見</li> </ul> <p>また、多くの人が利用できる地域を經由する観点から、観光地等を利用するためには、観光客にとって利便性が高い、人口が多く利用者が多い、生活に便利なルートにしてほしいとする意見も寄せられました。</p> <p>また、「評価項目で設定している視点に関する意見」では、早期整備(事業期間)や低コスト(事業費、津波や台風等への対応(災害)、環境配慮等)の視点を求める意見が寄せられました。</p> <p>本検討では、ルート案については、「対策案検討にあたっての基本的考え方」(ニューズレター第4号4～5頁)に基づき、「将来の姿の実現等」に向けもめられる公共交通の役割を踏まえ検討・設定を行うこと、事業費等経済面や環境面等の影響については、ステップ4においてルート毎に比較評価することとしています。</p> <p>そのため、県民の皆さまから寄せられた早期整備や環境影響等、評価項目として設定している視点については、ステップ4の比較評価において確認してまいります。</p> <p>以上より、県民の皆さまから寄せられた意見からはルート等検討の視点に追加する新たな視点への意見が見受けられなかったことから、骨格軸のルート案については、将来の姿の実現や陸上交通の課題解決の観点から整理した「公共交通の役割」を踏まえ設定した「ルート等検討の視点」に基づき検討を行っていくこととし、検討結果については、県民の皆さまと情報共有を図ってまいります。</p>
			11	那覇一名護を1時間より早く結んでほしいとする意見	
			5	那覇一名護を1時間で結ぶ必要は無いのではないかとする意見	
			10	那覇と名護を結んでほしいとする意見	
			56	早くつくルートがほしい、時間短縮可能なルートにしてほしいとする意見	
			26	今まで行ったことがない遠い地域に行くことができるようなルートにしてほしいとする意見	
				(関係機関等意見交換会意見)	
			1	生活者としては、北部へ行くのは遠く感じるが、鉄軌道ができることによって改善されると思われる	
			1	観光面や県民利用の面でも、北部への移動しやすさの改善、渋滞解消といったメリットが大きいと考える	
			20	名護までは要らないとする意見	
		432	自分自身にとって良く行く場所・行く機会の多い場所を通るルートにしてほしいとする意見		
		880	県民にとって利便性が高い、人口が多く利用者が多い、生活に便利なルートにしてほしいとする意見		
		70	多くの市町村を經由		
		4	雇用に資するルート		
		1033	自分が住んでいる地域等特定の地域、学校や商業施設等特定の施設を經由してほしいとする意見		
		146	国道58号や高速道路等がある地域は、既に利便性が高いからルート検討から外すべきとする意見、又は国道58号等が無いからルート検討にあたり考慮すべきとする意見		
		130	バス路線が十分な地域は既に利便性が高いからルート検討から外すべき、又はバス路線が不十分な地域は、ルート検討にあたり考慮すべきとする意見		
		174	交通の充実による交流拡大、利便性向上等、南北、西高東低等、地域格差が是正できるようなルートを求める意見、各地域まんべんなく通って全地域便利にしてほしいとする意見		
		28	交通の充実により東西横断が可能、東西の地域連携が可能、横断に便利なルートにしてほしいとする意見		
		557	観光客にとって導線が良い、便利、車を使わずに移動できる、多くの観光地等を經由できるルートにしてほしいとする意見		
		9	観光客はレンタカーを利用するため鉄軌道は利用しないのではないかとする意見		
		347	県民や観光客、いずれにも便利、多くの人が利用できるルートにしてほしいとする意見		
		73	観光客より県民を重視するルートにすべきとする意見		
			(県民会議共通意見)		
1	ルートの考え方として、人口や観光等をベースに検討されていることは適切である				
1	ルートは、県民、観光客を含め、需要の高い主要施設又は人の集まると予想される箇所など需要を考慮すべき				

**意見の概要**

**意見への対応**

## (6) 評価

- ・ アンケート回答者の属性を整理したところ、女性の割合が高いものの、年齢構成については、10代から70代以上まで幅広い年齢層から回答を得ることができた。
- ・ また、県民会議、関係機関等意見交換会、市町村会議を通して、各立場からの意見を把握することができた。
- ・ 寄せられた意見により提案のあった新たなルート案については、3つのルートを新たに加えるほか、延伸等に関する意見についても、フィーダー交通として需要予測した上で、ルート案の対象にするか検討することとした。
- ・ 寄せられた意見等を、整理、分類した結果、「検討プロセスに関する意見」、「骨格軸のルート検討に関する意見」、「フィーダー交通の検討に関する意見」等にカテゴリ別に分類し、それぞれの対応案を作成した。
- ・ なお、これまで行ってきたステップ1～ステップ3(後半)における意見分類及び意見への対応について、県民から不適切などの意見は無かった。

以上により、幅広く意見を収集し、それらへの対応を適切に示したと評価している。



## 2-5 まとめ

### (1) 視点毎のコミュニケーション活動の評価

	評価の視点	評価
1	情報の提供方法は適切であったか (情報提供方法)	<ul style="list-style-type: none"><li>・コミュニケーション活動実施計画で予定した活動は概ね実施できた。</li><li>・また、他事例との比較も、適切に情報提供されていることが確認できた。</li><li>・パネル展示では新たに大学、病院、港で追加開催し、県内新聞社により本取組に関する報道もなされ、より広く周知が出来た。</li><li>・その結果、アンケートの回答者は約3千名増加し、当計画案策定の取組も「以前から知っていた」と答えた方の割合は増加し、関心は高まっていると考える。</li></ul>
2	情報内容が適切であったか (情報内容)	<ul style="list-style-type: none"><li>・全ての情報はHPで開示されており、ニュースレターでは、委員会で審議した内容を、わかりやすく情報提供した。</li><li>・寄せられた意見からは、ニュースレターで確認した、「将来の姿が実現した場合の私たちの暮らし」、「骨格軸のルート案(複数)」等について、約8割の方の理解が得られた。</li></ul>
3	県民等との対話が適切に図られたか (対話)	<ul style="list-style-type: none"><li>・県民会議、市町村会議、関係機関等意見交換会は予定どおり実施し、意見交換を行い多くの意見を頂くことができた。</li><li>・直接対話ではないものの、地元紙により県民等のさまざまな意見が報道されたことで、マスメディアを通じた対話もなされた。</li></ul>
4	幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか(対応)	<ul style="list-style-type: none"><li>・アンケート回答者の性別及び年齢層も極端に偏りが生じることが無かったことから、幅広く意見を収集することができたと考える。</li><li>・また、頂いた意見はカテゴリ一別に分類しそれぞれの対応案を作成した。</li></ul>

## (2) コミュニケーション活動の総合評価

- ・ コミュニケーション実施計画に基づく活動の実施や、マスメディアの積極的活用による周知・広報活動に努めた結果、県民等へ幅広く情報提供を行うことができた。
- ・ その結果、取組に関する認知度や、取り組みを「以前から知っていた」とする回答が前回よりも上昇した。
- ・ 情報は全て開示されており、ニューズレターで確認した、「将来の姿が実現した場合の私たちの暮らし」、「骨格軸のルート案(複数)」等に関する理解度も高いことから、提供した情報内容は適切であった。
- ・ また、オープンハウスや県民会議などを通じて県民との対話も図られた。
- ・ アンケート回答者数は、前回より約3千人多い8,788人から意見を頂き、内容をカテゴリー別に分類し、対応を整理した。
- ・ わかりやすい情報の提供など、改善すべき課題はあるものの、コミュニケーション活動の実施及び意見の収集、意見への対応の整理により、今回のステップ3検討内容については、県民等との情報共有が適切に行われた。
- ・ なお、多くの方が「新聞やニュース」で情報を取得している状況を踏まえ、引き続き、報道機関への積極的な情報提供に努めることとする。